概要

本研究では北陸新幹線に関する富山県議会の議論における発言者属性と発言内容の対応関係についてスケールの政治から考察を行った．対応関係の整理ではテキスト分析ツール「KH Coder」の対応分析とコーディングによるクロス集計を用いた．

まず役職によって議論の姿勢が異なっており，知事は国への積極的な関与によって新幹線建設を促進するといった県を超えたスケールの政治が見られたのに対し，議員は新幹線建設に伴う負の側面について県のスケールで議論を行っていた．

次に議員の発言内容は所属政党によって左右されている傾向が見られ，与党である自由民主党は新幹線建設に対して前向きであるのに対して野党である日本共産党や社会民主党などは新幹線建設に伴う負の影響を問いただしており，所属政党が持つ国のスケールでのイデオロギーが県のスケールに持ち込まれていることが分かった．

最後に議員の出身地と発言内容の対応関係は黒部市の「新黒部駅」や富山市の「富山駅」など部分的に当てはまるものの，全体として関係性は希薄であった．すなわち議員の出身地である各市町村から県へのスケール・ジャンプはあまり見られなかった．

キーワード：スケールの政治，会議録，テキスト分析，整備新幹線，政治地理